

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年4月9日

事業所名 子どもデイサービスmomo

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		訓練室にはなるべくバナーを書かないようにしている。	将来的にもっと広い事務所に移転を考えている。
	2 職員の配置数は適切である	○			必要に応じて新規採用している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			入口にスロープを設置し、フロアの段差をなくすようにしている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			毎月職員会議を実施し、全スタッフが起こっている問題について考え、話し合う時間を設けている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートを実施し、必要時は調整している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		問題があれば事業所内で対応できている。そのため視察点では外部評価の実施は考えていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			情報を収集し、可能な限りリモートの研修に参加してもらっている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			担当者等が計画を作成し、その計画について担当職員会議を開催して検討している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○				
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○			個別性を考えてプログラムを作成しているがまだ種類が少ない。今後プログラムを増やしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			利用時間により様々な活動を考えて支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日利用者ごとの担当を決めてその職員が責任をもって関わっている。	
	16 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			期前毎に毎日振り返りを行い、その日の出来事や振り返り、周知が必要な事項は申し送り欄に記載しスタッフ全員に知らせるようにしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の記録は日報に記載している。	
	18 定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			毎月実施している。必要時は個別支援会議を開催して開催している。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○					
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○				
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			必要時は病院で医師を受えた支援者会議を行っている。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○		必要があれば調整するが現在までは対象者がいないため実施していない。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		現時点では対象者がいない為実施していない。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○		現在感染症拡大の為研修が行われていない。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		現在感染症拡大の為研修が行われていない。
	27 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			○		感染症拡大の為自粛している。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		現時点では対象者がいない為実施していない。
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			体制の整備はできているが現在まで苦情の相談なし。苦情があれば対応していく。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			定期的にお便りを発行している。	
	35 個人情報に十分注意している	○				
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			対象に合わせて関わり方を考えている。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		感染症拡大の為実施していない。
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		避難訓練を実施しているが定期的には実施していない。	
非常時等の対応	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○			計画したが感染症拡大の為中止となった。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○		対象者がいない為組織内での取り決めはしていない。今後必要時調整する。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○		対象者がいない為実施していない。今後必要時調整する。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）						
公表：令和3年4月9日		事業所名 子どもデイサービスsmile				
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		訓練室はなるべくバニーを置かないようにしている。	将来的にもっと広い事務所に移転を考えている。
	2 職員の配置数は適切である	○			必要に応じて新規採用している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			入口にスロープを設置し、フロアの段差をなくようにしている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			毎月職員会議を実施し、全スタッフが起こっている問題について考え、話し合う時間を設けている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートを実施し、必要時は調整している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		問題があれば事業所内で対応できている。そのため現時点では外部評価の実施は考えていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			情報を収集し、可能な限りリモートの研修に参加してもらっている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			担当者指導員が計画を作成し、その計画について定例会議を開催して検討している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○				
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している			○		個別性を考えてプログラムを作成しているがまだ種類が少ない。今後プログラムを増やしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			利用時間により様々な活動を考えて支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日利用者ごとの担当を求めてその職員が責任をもって関わっている。	
	16 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			朝利用前毎日朝礼を行い、その日の出来事や振り返り、周知が必要な事項は申し送り帳に記録しスタッフ全員に知らせるようにしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の記録は日報に記載している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			毎月実施している。必要時は個別支援会議を開催して開催している。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○					
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○				
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○				必要時は病院で医師と支援者会議を行っている。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている				○	必要があれば調整するが現在では対象者がいないため実施していない。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				○	現時点では対象者がいないため実施していない。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている				○	現在感染症拡大の対象者の情報が付与されていない。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある				○	現在感染症拡大の対象者の情報が付与されていない。
	27 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している				○	感染症拡大の対象者となっている。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている				○	現時点で必要な対象者がいないため実施していない。
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				○	
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				体制の整備はできているが現在まで苦情の相談なし。苦情があれば対応していく。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				定期的にお便りを発行している。
	35 個人情報に十分注意している	○				
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				対象に合わせて関わり方を考えている。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				○	感染症拡大の対象者となっている。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			○		避難訓練を実施しているが定期的に実施していない。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			○		計画したが感染症拡大の為に中止となった。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				○	対象者がいない為組織内での取り決めはしていない。今後必要時調整する。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				○	対象者がいない為実施していない。今後必要時調整する。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				